

保 育 課 程

(旧保育計画)

【抜粋】

社会福祉法人清澄会
経営理念

**地域のために、保護者(利用者)とともに、
子どもを大切に**

広田保育園
保育理念

いつも子どもが真ん中です

豊かに伸びていく可能性を内に秘めている子どもたちが、
現在を最も良く生き、
望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

保育者の責務使命

私たちは自己の人間性(子ども観)を深めることで、
保育の専門性(保育観)を深めます

(2009年1月1日：改定施行)

保育課程

(概ね6ヶ月から1歳3ヶ月未満)

社会福祉法人清澄会 広田保育園

保育理念・基本方針

保育理念:「いつも子どもが真ん中です」… 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場とすること。 2 家庭との緊密な連携の下、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育における環境を通して、養護と教育を一体的に行なうこと。 3 家庭や地域のさまざまな社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者及び地域の子育て意家庭に対する支援を行うこと。 4 倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断を持って、子どもを保育すると共に、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行なうこと。
保育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う <ol style="list-style-type: none"> 1)十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。【養護】 2)健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。【健康】 3)人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。【人間関係】 4)生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。【環境】 5)生活の中で言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。【言葉】 6)様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。【表現】 2 保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を活かし、その援助にあたること。
保育の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 1人ひとりの子どもの状況や家庭及び地域社会での生活実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。 2 子どもの生活リズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること。 3 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。 4 子ども相互の関係作りや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。 5 子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。 6 1人ひとりの保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。
保育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるよう配慮すること。 2 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。 3 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 4 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

保育課程		食育計画																																		
発達過程	座る、這う、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達すること及び自由に手を使えるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなど、やり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。また、身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。	発達過程	6ヶ月を過ぎると乳歯が生え始め、吸うばかりでなく、下や歯茎でつぶす行動が見られるようになる。また、大人が食べている様子を見つめながら、よだれをたらすこともある。母乳・ミルクだけでは必要な栄養素が不足するため、栄養補給のためにも離乳食が必要になってくる。離乳期に入ると、子どもはさまざまな食べ物の味、形、色、口当たりを経験するようになる。大人からの温かい援助の中で、少しずつ摂取できる食品の量や種類を増やしていく。その経験が味覚や口、触覚を刺激し、これらの発達を促すと同時に、子どもの好奇心を育てていく。離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を経験することが、食べ物への興味や食べようとする意欲を高めていく。この時期には人見知りが激しくなる。これは特定の大人とそうでない大人を識別できるようになったことの証でもある。親しい大人に積極的に関わりを持つようとする子どもの気持ちを大切に受け入れ、応答することが情緒の安定にとって重要である。親しい大人との安定したかかわりの中で、子どもは食の満足感と人への共感を体験する。																																	
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">ねらい</td> <td>養護</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ・1人ひとりの子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 </td> <td rowspan="6">ねらい</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して、自分で食べようとする。 </td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。 ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。 ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。 </td> <td rowspan="6">内容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う。 ・お腹がすいたら、泣く、または喃語によって、乳や食べ物を催促する。 ・いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べさせてくれる人に関心を持つ。 </td> </tr> <tr> <td>人間関係</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と応答的に関わることで情緒的な絆を深める。 </td> <td rowspan="6">保育者の配慮事項</td> <td rowspan="6"> <ul style="list-style-type: none"> ・1人ひとりの子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮すること。 ・お腹がすき、乳や食べ物を催促することの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接して楽しむ機会を持ち、食欲を育むよう配慮すること。 ・1人ひとりの子どもの発育・発達を適切に把握し、課程と連携をとりながら、個人差に配慮すること。 ・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮すること。 ・食欲と人間関係が密接な関係にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが、子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるように配慮すること。 </td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる人的物的環境の下で、絵本や玩具、身近な生活用品などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。 </td> </tr> <tr> <td>言葉</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・優しく語りかけ、発声や喃語に回答し、発語の意欲を育てる。 </td> </tr> <tr> <td>表現</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 </td> </tr> <tr> <td>養護</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・身体発達や健康状態を的確に把握しながら、1人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、ゆったりした気持ちで個人差に応じて授乳を行い、1人ひとりに合わせてミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れるようにし、離乳を進めて、次第に幼児食に移行する。 </td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・授乳、食事の前後や汚れたときは、優しく言葉をかけながら顔や手を拭く。 ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。また1人ひとりの排尿間隔を把握し、徐々にオムツやトイレなどでの排泄にも興味を持てるようにする。 ・寝返り、はいはい、お座り、つたい歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態に合った活動を十分に行なうと共に、つまむ、たたく、ひっぱるなどの手や指を使つての遊びを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td>人間関係</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中での保育士のすることに興味を持ったり、模倣したりしてすることを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と関わりを保ちながら安定的に生活する。 </td> </tr> <tr> <td>言葉</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育士とのやりとりを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td>表現</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られて、玩具や身のまわりの物で1人遊びを十分に楽しむようにする。 ・保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かしたりして楽しむ。 ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保育士の配慮</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の未熟性が強く、病気や生命の危険に陥りやすいため、1人ひとりの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、それに応じて適切に対応できるよう個別に保育を進めていく。【乳児突然死症候群の予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行う。】 ・愛情豊かで適切な保育士との関わりが、子どもの人間形成の基盤となり、情緒や言葉の発達に大きく影響することを認識し、子どもの様々な欲求を適切に満たし、子どもとの信頼関係を十分築くようにする。 ・保育士や子どもの身の回りの環境や衣類、寝具、玩具などの点検を常に行い、温度湿度などの環境保健に注意を払うと共に、室内の色彩やベッドなど備品の配置などにも配慮する。 ・食事、排泄などは、1人ひとりの子どもの発育、発達状態に応じて無理のないように行い、うまくできたときは褒めるなどの配慮をする。 ・1人ひとりの子どもの発育、発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち自分からしてみようとする意欲を大切に温かく見守る。 ・玩具などの色彩や音色、形、感触などに留意し、目、耳の感覚機能が発達するような働きかけをする。 ・育児経験の浅い保護者には、乳児が健やかで安定した育ちが保たれるよう、適切な保育(子育て)に関する指導を働きかける。 ・長時間の保育を要する子どもには、とりわけ日課の終盤について、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静かな保育環境を用意しつつ、見守る保育を心掛ける。 </td> <td rowspan="2">重点事項</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SIDS(乳児突然死症候群)の発生予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行うこと。また、入園時や月齢に応じハンカチテストを実施する他、発生予防に関する必要な措置を講じること。 ・定期的な発育に関する検査を実施し、その結果や発育の状態に関して家庭との連携を密に、相互理解や喜び合いの下に、子どもを慈しむこと。 ・1人ひとりの子どもについて、予防接種や健康診断の結果等を正確に把握すること。 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。また1人ひとりの排尿間隔を把握し、徐々にオムツやトイレなどでの排泄にも興味を持てるようにする。 ・身体発達や健康状態を的確に把握しながら、1人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・身体機能の未熟性が強く、病気や生命の危険に陥りやすいため、1人ひとりの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、それに応じて適切に対応できるように個別に保育を進めていく。 ・乳児突然死症候群の予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行う。 ・保育士や子どもの身の回りの環境や衣類、寝具、玩具などの点検を常に行い、また温度湿度などの環境保健に注意を払うと共に、室内環境の色彩やベッドなどの備品の配置などにも配慮する。 ・食事、排泄は、1人ひとりの子どもの発育、発達状態に応じて無理のないように行い、うまくできたときは褒めるなどの配慮をする。 </td> </tr> </table>		ねらい	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ・1人ひとりの子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して、自分で食べようとする。 	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。 ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。 ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う。 ・お腹がすいたら、泣く、または喃語によって、乳や食べ物を催促する。 ・いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べさせてくれる人に関心を持つ。 	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と応答的に関わることで情緒的な絆を深める。 	保育者の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ひとりの子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮すること。 ・お腹がすき、乳や食べ物を催促することの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接して楽しむ機会を持ち、食欲を育むよう配慮すること。 ・1人ひとりの子どもの発育・発達を適切に把握し、課程と連携をとりながら、個人差に配慮すること。 ・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮すること。 ・食欲と人間関係が密接な関係にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが、子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるように配慮すること。 	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる人的物的環境の下で、絵本や玩具、身近な生活用品などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。 	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく語りかけ、発声や喃語に回答し、発語の意欲を育てる。 	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・身体発達や健康状態を的確に把握しながら、1人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、ゆったりした気持ちで個人差に応じて授乳を行い、1人ひとりに合わせてミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れるようにし、離乳を進めて、次第に幼児食に移行する。 	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳、食事の前後や汚れたときは、優しく言葉をかけながら顔や手を拭く。 ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。また1人ひとりの排尿間隔を把握し、徐々にオムツやトイレなどでの排泄にも興味を持てるようにする。 ・寝返り、はいはい、お座り、つたい歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態に合った活動を十分に行なうと共に、つまむ、たたく、ひっぱるなどの手や指を使つての遊びを楽しむ。 	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中での保育士のすることに興味を持ったり、模倣したりしてすることを楽しむ。 	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と関わりを保ちながら安定的に生活する。 	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育士とのやりとりを楽しむ。 	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られて、玩具や身のまわりの物で1人遊びを十分に楽しむようにする。 ・保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かしたりして楽しむ。 ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 	保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の未熟性が強く、病気や生命の危険に陥りやすいため、1人ひとりの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、それに応じて適切に対応できるよう個別に保育を進めていく。【乳児突然死症候群の予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行う。】 ・愛情豊かで適切な保育士との関わりが、子どもの人間形成の基盤となり、情緒や言葉の発達に大きく影響することを認識し、子どもの様々な欲求を適切に満たし、子どもとの信頼関係を十分築くようにする。 ・保育士や子どもの身の回りの環境や衣類、寝具、玩具などの点検を常に行い、温度湿度などの環境保健に注意を払うと共に、室内の色彩やベッドなど備品の配置などにも配慮する。 ・食事、排泄などは、1人ひとりの子どもの発育、発達状態に応じて無理のないように行い、うまくできたときは褒めるなどの配慮をする。 ・1人ひとりの子どもの発育、発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち自分からしてみようとする意欲を大切に温かく見守る。 ・玩具などの色彩や音色、形、感触などに留意し、目、耳の感覚機能が発達するような働きかけをする。 ・育児経験の浅い保護者には、乳児が健やかで安定した育ちが保たれるよう、適切な保育(子育て)に関する指導を働きかける。 ・長時間の保育を要する子どもには、とりわけ日課の終盤について、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静かな保育環境を用意しつつ、見守る保育を心掛ける。 	重点事項
ねらい	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ・1人ひとりの子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 		ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して、自分で食べようとする。 																															
	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。 ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。 ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。 			内容		<ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う。 ・お腹がすいたら、泣く、または喃語によって、乳や食べ物を催促する。 ・いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べさせてくれる人に関心を持つ。 																													
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と応答的に関わることで情緒的な絆を深める。 					保育者の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ひとりの子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮すること。 ・お腹がすき、乳や食べ物を催促することの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接して楽しむ機会を持ち、食欲を育むよう配慮すること。 ・1人ひとりの子どもの発育・発達を適切に把握し、課程と連携をとりながら、個人差に配慮すること。 ・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮すること。 ・食欲と人間関係が密接な関係にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが、子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるように配慮すること。 																												
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる人的物的環境の下で、絵本や玩具、身近な生活用品などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。 																																		
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく語りかけ、発声や喃語に回答し、発語の意欲を育てる。 																																		
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 																																		
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・身体発達や健康状態を的確に把握しながら、1人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、ゆったりした気持ちで個人差に応じて授乳を行い、1人ひとりに合わせてミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れるようにし、離乳を進めて、次第に幼児食に移行する。 																																			
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳、食事の前後や汚れたときは、優しく言葉をかけながら顔や手を拭く。 ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。また1人ひとりの排尿間隔を把握し、徐々にオムツやトイレなどでの排泄にも興味を持てるようにする。 ・寝返り、はいはい、お座り、つたい歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態に合った活動を十分に行なうと共に、つまむ、たたく、ひっぱるなどの手や指を使つての遊びを楽しむ。 																																			
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中での保育士のすることに興味を持ったり、模倣したりしてすることを楽しむ。 																																			
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人と関わりを保ちながら安定的に生活する。 																																			
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育士とのやりとりを楽しむ。 																																			
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られて、玩具や身のまわりの物で1人遊びを十分に楽しむようにする。 ・保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かしたりして楽しむ。 ・きれいな色彩や身近なものの絵本を見てイメージを豊かにする。 																																			
保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の未熟性が強く、病気や生命の危険に陥りやすいため、1人ひとりの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、それに応じて適切に対応できるよう個別に保育を進めていく。【乳児突然死症候群の予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行う。】 ・愛情豊かで適切な保育士との関わりが、子どもの人間形成の基盤となり、情緒や言葉の発達に大きく影響することを認識し、子どもの様々な欲求を適切に満たし、子どもとの信頼関係を十分築くようにする。 ・保育士や子どもの身の回りの環境や衣類、寝具、玩具などの点検を常に行い、温度湿度などの環境保健に注意を払うと共に、室内の色彩やベッドなど備品の配置などにも配慮する。 ・食事、排泄などは、1人ひとりの子どもの発育、発達状態に応じて無理のないように行い、うまくできたときは褒めるなどの配慮をする。 ・1人ひとりの子どもの発育、発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち自分からしてみようとする意欲を大切に温かく見守る。 ・玩具などの色彩や音色、形、感触などに留意し、目、耳の感覚機能が発達するような働きかけをする。 ・育児経験の浅い保護者には、乳児が健やかで安定した育ちが保たれるよう、適切な保育(子育て)に関する指導を働きかける。 ・長時間の保育を要する子どもには、とりわけ日課の終盤について、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静かな保育環境を用意しつつ、見守る保育を心掛ける。 	重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ・SIDS(乳児突然死症候群)の発生予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行うこと。また、入園時や月齢に応じハンカチテストを実施する他、発生予防に関する必要な措置を講じること。 ・定期的な発育に関する検査を実施し、その結果や発育の状態に関して家庭との連携を密に、相互理解や喜び合いの下に、子どもを慈しむこと。 ・1人ひとりの子どもについて、予防接種や健康診断の結果等を正確に把握すること。 																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。また1人ひとりの排尿間隔を把握し、徐々にオムツやトイレなどでの排泄にも興味を持てるようにする。 ・身体発達や健康状態を的確に把握しながら、1人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・身体機能の未熟性が強く、病気や生命の危険に陥りやすいため、1人ひとりの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、それに応じて適切に対応できるように個別に保育を進めていく。 ・乳児突然死症候群の予防のため、睡眠・休息中の状態の観察・記録を定期的に行う。 ・保育士や子どもの身の回りの環境や衣類、寝具、玩具などの点検を常に行い、また温度湿度などの環境保健に注意を払うと共に、室内環境の色彩やベッドなどの備品の配置などにも配慮する。 ・食事、排泄は、1人ひとりの子どもの発育、発達状態に応じて無理のないように行い、うまくできたときは褒めるなどの配慮をする。 																																			

保 育 課 程

(概ね3歳)

社会福祉法人清澄会 広田保育園

保 育 理 念 ・ 基 本 方 針

保育理念:「いつも子どもが真ん中です」… 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場とすること。 2 家庭との緊密な連携の下、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育における環境を通して、養護と教育を一体的に行なうこと。 3 家庭や地域のさまざまな社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者及び地域の子育て意家庭に対する支援を行うこと。 4 倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断を持って、子どもを保育すると共に、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行なうこと。
保育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う <ol style="list-style-type: none"> 1)十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。【養護】 2)健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。【健康】 3)人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。【人間関係】 4)生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。【環境】 5)生活の中で言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。【言葉】 6)様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。【表現】 2 保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を活かし、その援助にあたること。
保育の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 1人ひとりの子どもの状況や家庭及び地域社会での生活実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。 2 子どもの生活リズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること。 3 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。 4 子ども相互の関係作りや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。 5 子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。 6 1人ひとりの保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。
保育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるよう配慮すること。 2 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。 3 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 4 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

保 育 課 程		食 育 計 画																														
発達過程	基本的な運動機能が伸び、それに伴い、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる。話し言葉の基礎ができて、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には、同じ遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになる。予想や意図、期待を持って行動できるようになる。	3歳頃には運動能力やコミュニケーションの基礎的な部分は完成する。大人との関係を中心として行動していた子どもも、徐々に1人の独立した存在として行動しようとし、自我がよりはっきりしてくる。遊びや食事などの諸活動を通じて、徐々にお腹がすくなどの生活リズムが育っていく。また、周囲の大人や他の子どもとの温かい関わりを通して経験した「おいしい」という気持ちや、食べたいという気持ち、食べようとする意欲へとつながっていく。家庭での食習慣が確立してくるため、量だけでなく食べなれている食べ物の種類についても個人差が一層大きくなっていく。周囲の大人が温かな励ましの目を持って関わることに、子どもは慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦しようとする意欲を示すようになる。親しい人と一緒に食べることの楽しさ、和やかなコミュニケーション、同じ物を分け合って食べる経験を通して子どもは他の人々への愛情や信頼感を持つようになり、それが自分自身の安定感や効力感を育てていく。運動神経の発達により食事の片づけや準備などに実際に関わることができるようになる。季節の食材や行事食などを通じ、子どもなりの季節感を味わうようになる。更に大人からの援助を通じて、食具の正しい使い方や挨拶、姿勢などを身につけていくようになる。																														
	<table border="1"> <tr> <td>養護</td> <td>・1人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ねらい 教育</td> <td>健康 ・食事や排泄、睡眠、衣服の着脱などの身のまわりの生活の始末の仕方や生活の仕方を身につける。</td> </tr> <tr> <td>人間関係 ・身近な人との関わりや、同年齢や異年齢の友達と遊ぶことを楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>環境 ・身近な環境に興味を持ち、自分から進んで関わり、生活を広げていく。 ・戸外での季節感あふれる自然体験を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>言葉 ・生活に必要な言葉がある程度分かるようになり、したいこと、してほしいことを言葉で話す。</td> </tr> <tr> <td>表現 ・さまざまなものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。 ・感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、身体を動かしたりし、自由に表現しようとする。</td> </tr> </table>			養護	・1人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	ねらい 教育	健康 ・食事や排泄、睡眠、衣服の着脱などの身のまわりの生活の始末の仕方や生活の仕方を身につける。	人間関係 ・身近な人との関わりや、同年齢や異年齢の友達と遊ぶことを楽しむ。	環境 ・身近な環境に興味を持ち、自分から進んで関わり、生活を広げていく。 ・戸外での季節感あふれる自然体験を楽しむ。	言葉 ・生活に必要な言葉がある程度分かるようになり、したいこと、してほしいことを言葉で話す。	表現 ・さまざまなものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。 ・感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、身体を動かしたりし、自由に表現しようとする。																					
養護	・1人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。																															
ねらい 教育	健康 ・食事や排泄、睡眠、衣服の着脱などの身のまわりの生活の始末の仕方や生活の仕方を身につける。																															
	人間関係 ・身近な人との関わりや、同年齢や異年齢の友達と遊ぶことを楽しむ。																															
	環境 ・身近な環境に興味を持ち、自分から進んで関わり、生活を広げていく。 ・戸外での季節感あふれる自然体験を楽しむ。																															
	言葉 ・生活に必要な言葉がある程度分かるようになり、したいこと、してほしいことを言葉で話す。																															
表現 ・さまざまなものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。 ・感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、身体を動かしたりし、自由に表現しようとする。																																
経験内容	<table border="1"> <tr> <td>養護</td> <td>・食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びをする。 ・保育士にさまざまな欲求を受け止めてもらい保育士に親しみを持ち、安心して生活する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ねらい 教育</td> <td>健康 ・保育士の援助を受けながら、暑さや寒さ、活動により、衣服の調節を自分でしようとする。 ・外で十分に体を動かし、さまざまな遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>人間関係 ・同年齢や異年齢の友だちとの関わりが増える。</td> </tr> <tr> <td>環境 ・戸外活動などを通じて身近な動植物や自然事象を見たり触れたりして、親しみや愛情を持つ。 ・身近な小動物、植物、事物に触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして親しむ。</td> </tr> <tr> <td>言葉 ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育士や友だちと言葉のやりとりを楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>表現 ・身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ・さまざまな素材や用具を使って、描いたり玩(もてあそ)んだり、好きなように造形を楽しむ。 ・動物や乗り物などの動きを真似て体で表現することを楽しむ。</td> </tr> </table>	養護	・食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びをする。 ・保育士にさまざまな欲求を受け止めてもらい保育士に親しみを持ち、安心して生活する。	ねらい 教育	健康 ・保育士の援助を受けながら、暑さや寒さ、活動により、衣服の調節を自分でしようとする。 ・外で十分に体を動かし、さまざまな遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。	人間関係 ・同年齢や異年齢の友だちとの関わりが増える。	環境 ・戸外活動などを通じて身近な動植物や自然事象を見たり触れたりして、親しみや愛情を持つ。 ・身近な小動物、植物、事物に触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして親しむ。	言葉 ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育士や友だちと言葉のやりとりを楽しむ。	表現 ・身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ・さまざまな素材や用具を使って、描いたり玩(もてあそ)んだり、好きなように造形を楽しむ。 ・動物や乗り物などの動きを真似て体で表現することを楽しむ。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">内 容</td> <td>食と健康</td> <td>・できるだけ多種の食べ物や料理を味わう。 ・食生活に必要な基本的習慣・態度を身につける。</td> </tr> <tr> <td>食と人間関係</td> <td>・身近な人と食べる楽しさを味わう。</td> </tr> <tr> <td>食と文化</td> <td>・いろいろな料理やさまざまな食文化を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>命の育ちと食</td> <td>・自然と食や健康との関わりを知る。</td> </tr> <tr> <td>料理と食</td> <td>・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・配膳の手伝いや片づけに自ら関わろうとする。 ・落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">配 慮 事 項</td> <td>食と健康</td> <td>・好きな食べ物を美味しく食べる。 ・さまざまな食べ物を進んで食べる。 ・健康的な生活リズムを身につける。</td> </tr> <tr> <td>食と人間関係</td> <td>・身近な人と食事する喜びを味わう。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。</td> </tr> <tr> <td>食と文化</td> <td>・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。</td> </tr> <tr> <td>命の育ちと食</td> <td>・身近な動植物や食材に関心を持つ。 ・簡単な野菜の栽培活動を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>料理と食</td> <td>・自分でできる簡単な調理を経験する。 ・食事が楽しくなるような雰囲気作りを考える。</td> </tr> </table>	内 容	食と健康	・できるだけ多種の食べ物や料理を味わう。 ・食生活に必要な基本的習慣・態度を身につける。	食と人間関係	・身近な人と食べる楽しさを味わう。	食と文化	・いろいろな料理やさまざまな食文化を楽しむ。	命の育ちと食	・自然と食や健康との関わりを知る。	料理と食	・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・配膳の手伝いや片づけに自ら関わろうとする。 ・落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しむ。	配 慮 事 項	食と健康	・好きな食べ物を美味しく食べる。 ・さまざまな食べ物を進んで食べる。 ・健康的な生活リズムを身につける。	食と人間関係	・身近な人と食事する喜びを味わう。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。	食と文化	・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。	命の育ちと食	・身近な動植物や食材に関心を持つ。 ・簡単な野菜の栽培活動を楽しむ。	料理と食	・自分でできる簡単な調理を経験する。 ・食事が楽しくなるような雰囲気作りを考える。
	養護	・食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びをする。 ・保育士にさまざまな欲求を受け止めてもらい保育士に親しみを持ち、安心して生活する。																														
	ねらい 教育	健康 ・保育士の援助を受けながら、暑さや寒さ、活動により、衣服の調節を自分でしようとする。 ・外で十分に体を動かし、さまざまな遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。																														
		人間関係 ・同年齢や異年齢の友だちとの関わりが増える。																														
		環境 ・戸外活動などを通じて身近な動植物や自然事象を見たり触れたりして、親しみや愛情を持つ。 ・身近な小動物、植物、事物に触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして親しむ。																														
言葉 ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育士や友だちと言葉のやりとりを楽しむ。																																
表現 ・身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ・さまざまな素材や用具を使って、描いたり玩(もてあそ)んだり、好きなように造形を楽しむ。 ・動物や乗り物などの動きを真似て体で表現することを楽しむ。																																
内 容	食と健康	・できるだけ多種の食べ物や料理を味わう。 ・食生活に必要な基本的習慣・態度を身につける。																														
	食と人間関係	・身近な人と食べる楽しさを味わう。																														
	食と文化	・いろいろな料理やさまざまな食文化を楽しむ。																														
	命の育ちと食	・自然と食や健康との関わりを知る。																														
	料理と食	・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・配膳の手伝いや片づけに自ら関わろうとする。 ・落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しむ。																														
配 慮 事 項	食と健康	・好きな食べ物を美味しく食べる。 ・さまざまな食べ物を進んで食べる。 ・健康的な生活リズムを身につける。																														
	食と人間関係	・身近な人と食事する喜びを味わう。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。																														
	食と文化	・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。																														
	命の育ちと食	・身近な動植物や食材に関心を持つ。 ・簡単な野菜の栽培活動を楽しむ。																														
	料理と食	・自分でできる簡単な調理を経験する。 ・食事が楽しくなるような雰囲気作りを考える。																														
保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちを温かく受容し、優しく応答し、保育士と一緒にいることで安心できるような関係をつくる。 ・身の回りのことはある程度は自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要に応じて援助する。 ・摂取量に個人差が生じたり偏食が出やすいので、1人ひとりの心身の状況を把握し、食事は楽しい雰囲気の中でできるようにする。 ・友だちとの関係については、保育士や遊具その他のものを仲立ちとして、その関係が持てるように配慮する。また異年齢の子どもとのふれあいや関わりを促す。 ・身近なさまざまなものに興味を持つので、その興味や探索意欲などを十分に満足させるように環境を整え、保健、安全面に留意して意欲的に関わるようにする。 ・思ったことや感じたことを言葉で表現できるよう保育士が落ち着いた聞き取り、表現したい気持ちを受け止める。 ・身近なものに直接触れたり、扱ったり、新しいものに驚いたり、不思議に思うなどの感動をする経験が広がるように環境を整え、感動を共感していく。 ・散歩など戸外での活動に広がりを持たせ、保育園の周りのさまざまな環境への関心や自然事象・小動物などへの興味が芽生えるよう配慮する。 ・少人数編成であることの長所短所を的確に理解し、子どもとの関わりや子どもの体験が充実したものとなるよう常に創意工夫を行う。 ・長時間保育の子どもには、特に日課の終盤、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静的な保育環境を用意する。 	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">配 慮 事 項</td> <td>食と健康</td> <td>・食事と健康とが密接な関係にあることをふまえ子どもと保育士が温かなふれあいの中で楽しい食事をすることを基本とした配慮を行なう。 ・子どもの自立心が育まれるよう、意欲や主体性を尊重しながら食習慣の形成を図る。</td> </tr> <tr> <td>食と人間関係</td> <td>・大人との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立することが人と関わることの基盤となることをふまえ、子どもと共に食事することや調理場面を見学する機会を大切にすること。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重 点 事 項</td> <td>食と文化</td> <td>・食に関わる文化や世界、人とのつながりの理解が徐々に広がるよう過程を大切につつ構成する。 ・個人差を考慮しつつ、無理強いすることのないよう、食事のマナーを身につけさせる。</td> </tr> <tr> <td>命の育ちと食</td> <td>・自然や食材が持つ美しさや不思議さを直接体験できるように、子どもとの関わりを大切にすること。 ・子どもができる部分に十分配慮しつつ、安全で楽しい栽培活動を進める。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保 健 計 画</td> <td rowspan="2">配 慮 事 項</td> <td>・身の回りのことはある程度は自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要に応じて援助する。</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な身体検査・健康診断等の結果をもとに、家庭との連携を密にし、相互理解や喜び合いの下に、子どもを慈しむこと。 ・1人ひとりの子どもについて、予防接種や健康診断の結果等を正確に把握すること。 ・基本的生活習慣がある程度は身につけ、自立や自律の芽生えの時期でもあることから、健康的に生活する習慣づくりを後押しすること。 </td> </tr> </table>	配 慮 事 項	食と健康	・食事と健康とが密接な関係にあることをふまえ子どもと保育士が温かなふれあいの中で楽しい食事をすることを基本とした配慮を行なう。 ・子どもの自立心が育まれるよう、意欲や主体性を尊重しながら食習慣の形成を図る。	食と人間関係	・大人との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立することが人と関わることの基盤となることをふまえ、子どもと共に食事することや調理場面を見学する機会を大切にすること。	重 点 事 項	食と文化	・食に関わる文化や世界、人とのつながりの理解が徐々に広がるよう過程を大切につつ構成する。 ・個人差を考慮しつつ、無理強いすることのないよう、食事のマナーを身につけさせる。	命の育ちと食	・自然や食材が持つ美しさや不思議さを直接体験できるように、子どもとの関わりを大切にすること。 ・子どもができる部分に十分配慮しつつ、安全で楽しい栽培活動を進める。	保 健 計 画	配 慮 事 項	・身の回りのことはある程度は自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要に応じて援助する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な身体検査・健康診断等の結果をもとに、家庭との連携を密にし、相互理解や喜び合いの下に、子どもを慈しむこと。 ・1人ひとりの子どもについて、予防接種や健康診断の結果等を正確に把握すること。 ・基本的生活習慣がある程度は身につけ、自立や自律の芽生えの時期でもあることから、健康的に生活する習慣づくりを後押しすること。 																
	配 慮 事 項	食と健康		・食事と健康とが密接な関係にあることをふまえ子どもと保育士が温かなふれあいの中で楽しい食事をすることを基本とした配慮を行なう。 ・子どもの自立心が育まれるよう、意欲や主体性を尊重しながら食習慣の形成を図る。																												
食と人間関係		・大人との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立することが人と関わることの基盤となることをふまえ、子どもと共に食事することや調理場面を見学する機会を大切にすること。																														
重 点 事 項	食と文化	・食に関わる文化や世界、人とのつながりの理解が徐々に広がるよう過程を大切につつ構成する。 ・個人差を考慮しつつ、無理強いすることのないよう、食事のマナーを身につけさせる。																														
	命の育ちと食	・自然や食材が持つ美しさや不思議さを直接体験できるように、子どもとの関わりを大切にすること。 ・子どもができる部分に十分配慮しつつ、安全で楽しい栽培活動を進める。																														
保 健 計 画	配 慮 事 項	・身の回りのことはある程度は自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要に応じて援助する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な身体検査・健康診断等の結果をもとに、家庭との連携を密にし、相互理解や喜び合いの下に、子どもを慈しむこと。 ・1人ひとりの子どもについて、予防接種や健康診断の結果等を正確に把握すること。 ・基本的生活習慣がある程度は身につけ、自立や自律の芽生えの時期でもあることから、健康的に生活する習慣づくりを後押しすること。 																													

保 育 課 程

(概ね5歳)

社会福祉法人清澄会 広田保育園

保 育 理 念 ・ 基 本 方 針

保育理念:「いつも子どもが真ん中です」・・・子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場とすること。 2 家庭との緊密な連携の下、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育における環境を通して、養護と教育を一体的に行なうこと。 3 家庭や地域のさまざまな社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者及び地域の子育て意家庭に対する支援を行うこと。 4 倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断を持って、子どもを保育すると共に、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行なうこと。
保育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う <ol style="list-style-type: none"> 1)十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの欲求を満し、生命の保持及び情緒の安定を図ること。【養護】 2)健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。【健康】 3)人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。【人間関係】 4)生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。【環境】 5)生活の中で言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。【言葉】 6)様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。【表現】 2 保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を活かし、その援助にあたること。
保育の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 1人ひとりの子どもの状況や家庭及び地域社会での生活実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。 2 子どもの生活リズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること。 3 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。 4 子ども相互の関係作りや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。 5 子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。 6 1人ひとりの保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。
保育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいけるよう配慮すること。 2 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。 3 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 4 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

保 育 課 程

食 育 計 画

発達過程	<p>基本的な生活習慣が身に付き、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間と共に活発に遊ぶ。言葉によって共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動することが増える。さらに、遊びを発展させ、楽しむために、自分たちで決まりを作ったりする。また、自分なりに考えて判断したり、批判する力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。他人の役に立つことを嬉しく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。</p>		発達過程	<p>5歳頃には日常生活はほぼ自立して行なえるようになり、自分で考えて行動するための判断力も育ってくる。家庭での食習慣はほぼ確立し、子どもは慣れない食べ物や嫌いな食べ物も健康で丈夫な体を作るために必要と考へ、進んで食べようとする意欲が強くなっていく。子どもは他の人と自分の違いや関わりを大切さを理解し、他の人々の役に立つことを嬉しいと感じるだけでなく、責任感や使命感を持ちながら関わるようになり、その経験から、食材に興味や関心を一層強く持ち、家庭で一般的な調理には自分から順を踏んで関わろうとする意欲も増してくる。食材の栽培や動物の飼育から命の大切さを学ぶ。食具の正しい使い方や挨拶、姿勢などはほぼ身につく。また、地域や世界の食文化への関心・興味が高まるだけでなく、自分の生活との関わりや、食材の生産・流通などにも関心が芽生えるようになる。</p>		
ねらい	養護	・健康や安全など生活に必要な基本的な習慣や自主協調の態度を身に付け、理解して行動する。		ねらい	食と健康	・できるだけ多種の食べ物や料理を味わう。 ・栄養のある食事や食の安全に関心を向ける。
	教育	健康	・自分でできることに喜びを持ちながら、健康や安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身に付ける。		食と人間関係	・まわりの人々と一緒に食事から安心感を持つ。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。
		人間関係	・同年齢だけでなく異年齢の子や地域のお年寄りなど、さまざまな人との関わりを深め、共に生きる心と力を育む。		食と文化	・多様な食文化や食生活を理解する。 ・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。
		環境	・身近な環境や自然に自ら進んで関わり、さまざまな事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。		命の育ちと食	・自然の恵みと自分の関わりを理解する。 ・身近な動植物や食材の存在に関心を持つ。 ・簡単な野菜の栽培活動を楽しむ。
経験内容	言葉	・童話や絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして、さまざまなイメージを広げると共に、言葉に対する感性が豊かになる。	内容	料理と食	・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・配膳の手伝いや片づけに主体的に関わる。 ・食事にふさわしい環境を考え、作り出す。	
	表現	・感じたことや思ったこと、想像したことを工夫して、目標を持ってさまざまな方法で表現する。		食と健康	・健康な生活リズムを身につける。 ・健康に関心をもち必要な食品を意欲的にとる。 ・健康と食べ物の関係を正しく理解する。	
	養護	・保育士との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表現することができるなど、情緒の安定した生活をする。		食と人間関係	・身近な人と食事する喜びを味わう。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。 ・食事に必要な決まりに気づき守ろうとする。	
	健康	・食事の仕方やマナーなどが身につく、体と食物の関係に関心を持つ。		食と文化	・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。 ・地域の産物を生かした料理を味わい、郷土への親しみを深める。 ・食材にも季節があることを知り季節感を味わう。	
保育士の配慮	人間関係	・友だちと一緒にさまざまな運動や遊びをし、仲間意識を高める。 ・異年齢児の子どもとのかかわりを深め愛情を持ったり、地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。	配慮事項	命の育ちと食	・身近な動植物や食材に関心を持つ。 ・自分たちで栽培・収穫した野菜を食べる。 ・身近な動植物の恵みに感謝する。 ・食べ物をみんなで分けて食べる喜びを味わう。	
	環境	・近隣の生活に興味や関心を持ち、人々のさまざまな営みに気づく。 ・自然や身近な動植物や自然事象に触れ、驚いたり、感動したりして、興味や関心を深める。		料理と食	・身近な調理作業の大切さや安全性を理解する。 ・調理経験を多くして、できることを増やす。 ・簡単な調理器具の使用法を身につける。 ・おいしそうな盛り付けを考える。 ・食事が楽しくなるような雰囲気作りを考える。	
	言葉	・人の話を注意して聞き、相手にも分かりやすいように話す。 ・日常生活に必要な標識や、身近にある文字、地域の伝統文化・芸能などに興味や関心を持つ。		食と健康	・子どもと保育士が温かふれあいの中で楽しい食事をすることを基本とした配慮を行なう。 ・子どもの自立心が育まれるよう、意欲や主体性を尊重しながら食習慣の形成を図る。	
	表現	・感じたこと、想像したことを言葉や体、音楽、造形などで自由に表現したり、演じたりするなど、さまざまな表現を楽しむ。 ・和太鼓やリズム楽器などの音楽表現活動に興味や親しみを持って楽しむ。		食と人間関係	・食生活と関わりが深い人々と交流する。 ・食を通じた地域ボランティア活動へ参加を促す。	
保健計画	配慮事項	・子どもの気持ちを温かく受容し、心身の発達や嗜好の個人差を考慮して、子どもが安定して活動できるように配慮する。 ・健康や安全など生活に必要な基本的な習慣や態度が身に付き、自分の体を大切にしようとする気持ちが育ち、自主的に行動することができるよう配慮する。 ・老人福祉施設訪問など世代間交流等を通じて、身近に暮らしているいろいろな人と交流し、共感あふ経験を通じて人と関わることの楽しさや大切さを味わうことができるような機会を多く持つ。 ・動植物との触れ合いや小動物の飼育・野菜の栽培などを通じて、自分たちの生活との関わりや気づき、感謝の気持ちや生命を大切にすることが育つようにする。 ・本を見ることや身近なさまざまな文字を読む喜びを大切に、言葉の感覚が豊かになるよう配慮する。 ・表現しようと思うもののイメージがわくような雰囲気を作り、さまざまな材料や用具を適切に使えるようにしながら、表現する喜びを知らせ、創造性が豊かになるよう配慮する。 ・自分のしたいことがしっかりと相手に伝わる喜びを味わうため、人前で話す機会や場面をできるだけ多くする。 ・散歩や園外保育などを計画的に行い、園の周辺と近郊の環境の違いや関わり、それらと自分との関わりや気づき、社会や地域への関心の芽生えが深まるよう配慮する。 ・和太鼓やリズム楽器などの音楽表現活動を楽しんだり、柔道教室を通じて挨拶・礼儀作法が身に付くよう全身で運動させる。 ・集団生活におけるさまざまな経験や役割の体験を通じて、ある程度の数量や文字、時間の感覚が身につくよう、また、就学を意識して、時には自分自身を律することの大切さや、場面や状況に応じて自己主張や自己表現できる力が身につくよう配慮する。 ・長時間保育の子どもには、特に日課の終盤、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静的な保育環境を用意する。	重点事項	・柔道教室や運動プログラムの実施により健康の保持増進を図ると共に、家庭との連携・共通理解に努めること。 ・健康な生活を子ども自らが気づき考え実践する態度を養うこと。		

保 育 課 程

(概ね6歳)

社会福祉法人清澄会 広田保育園

保 育 理 念 ・ 基 本 方 針

保育理念:「いつも子どもが真ん中です」… 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場とすること。 2 家庭との緊密な連携の下、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育における環境を通して、養護と教育を一体的に行なうこと。 3 家庭や地域のさまざまな社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者及び地域の子育て意家庭に対する支援を行うこと。 4 倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断を持って、子どもを保育すると共に、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行なうこと。
保育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う <ol style="list-style-type: none"> 1)十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。【養護】 2)健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。【健康】 3)人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。【人間関係】 4)生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。【環境】 5)生活の中で言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。【言葉】 6)様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。【表現】 2 保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を活かし、その援助にあたること。
保育の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 1人ひとりの子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。 2 子どもの生活リズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること。 3 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。 4 子ども相互の関係作りや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。 5 子どもが自発的、意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。 6 1人ひとりの保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。
保育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいけるよう配慮すること。 2 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。 3 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 4 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

保 育 課 程

食 育 計 画

発達過程	<p>全身運動が滑らかで巧みになり、快活に跳び回るようになる。これまでの体験から、自信や予想、見通しを立てる力が育ち、心身ともに力があふれ、意欲が旺盛になる。仲間の意思を大切にしようとし、役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。思考力や認識力も高まり、自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心も深まっていく。身近な大人に甘えることもあるが、様々な体験を通して自立心が一層高まっていく。</p>	発達過程	<p>6歳頃には基本的な生活習慣が確立・完成し、自分で考えて行動するための判断力も備わる。家庭での食習慣も確立し、子どもは慣れない食べ物や嫌いな食べ物も健康で丈夫な体を作るために必要と考え、進んで食べようとする意欲的な態度が感じられるようになる。子どもは他の人と自分の違いや関わりを大切に理解し、他の人々の役に立つことを嬉しいと感じるだけでなく、責任感や使命感などを持ちながら関わりようになり、その経験から、食材に興味や関心を一層強く持ち、食材の成り立ち(生産・流通などの産業や生物の生長・家畜動物の使命など)にも理解の基礎ができてくる。家庭で一般的な調理には自分から手順を踏んで関わろうとする意欲も増してくる。食材の栽培や動物の飼育から命の大切さを学ぶ。食具やの正しい使い方や調理器具の簡単な使用方法も理解できるようになる。また、地域や世界の食文化への関心・興味が高まり、日本と外国の関わりへの関心も広がりを示す。</p>		
ねらい	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全など生活に必要な基本的な習慣や自主協調の態度を身に付け、正しく理解して適切に行動する。 	ねらい	食と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のある食事や食の安全に関心を向ける。
	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康や安全など生活に必要な基本的な習慣を確立させる。 ・就学を目標に、子ども自身で自立・自立心や自主性をますます大きく膨らませる。 		食と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりの人々と一緒に食事から安心感を持つ。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢だけでなく異年齢の子や地域のお年寄りなど、さまざまな人との関わりを深め、共に生きる心と力を育む。 		食と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な食文化や食生活を理解する。 ・伝統的な食事や郷土食にふれる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境や自然に自ら進んで関わり、さまざまな事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。 		命の育ちと食	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の恵みと自分の関わりを理解する。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなや簡単な漢字、数字の読み書きや、人の話を注意して聞いたり相手にも分かりやすく話すことができるようになる。 		料理と食	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・食事にふさわしい環境を考え、作り出す。
経験内容	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・時には身近な大人に甘え気持を休めたりすることもあるものの、自意識や自立心などの高まりなど精神的な発達が進み、情緒の安定した生活をする。 	内容	食と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身につける。 ・健康に関心をもち必要な食品を意欲的にとる。 ・健康と食べ物の関係を正しく理解する。
	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・年長として自覚や誇りを持った姿が見られるようになる。また、就学を見通して、意欲的・自主的な生活を送るようになる。 ・病気と健康的な生活、ケガと安全な生活の関係を理解し、自立・自律的な生活を送るようになる。 ・全身運動や手指の細かい運動機能がより巧みになる。 		食と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人と食事する喜びを味わう。 ・調理をしている人に関心を持って関わる。 ・食事に必要な決まりに気づき守ろうとする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の意思や仲間の中で通用する約束事が大事なものとなり守ろうとする。 ・ごっこ遊びを発展させた集団遊びが活発になり、遊びの中で役割が生まれる。 ・友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合うこととともに、仲間と協調したり、意見を調整しながら仲間の中で合意を得ていくようになる。 		食と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な食事や郷土食にふれる。 ・食事における正しいマナーを身につける。 ・地域の産物を生かした料理を味わい、郷土への親しみを深める。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の病院、郵便局、学校、コミセン、銀行、商店など、社会的施設等の役割を理解できるようになる。 ・地域での自分の存在や、自分と地域との関わりを理解して行動しようとする。 		命の育ちと食	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで栽培・収穫した野菜を食べる。 ・身近な動植物の恵みに感謝する。 ・食べ物をみんなで分けて食べる喜びを味わう。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な標識や文字、地域の伝統文化・芸能などに興味や関心を持つ。 ・自分の名前を平仮名で書くことができ、漢字で書いた名前を読むことができる。 		料理と食	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な調理作業の大切さや安全性を理解する。 ・調理経験を多くして、できることを増やす。 ・簡単な調理器具の使用法を身につける。 ・食事が楽しくなるような雰囲気作りを考える。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの内面の成長や心の豊かさが現れ、一つの表現が更に表現しようとする意欲を高めていくようになる。 		食と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保育士が温かなふれあいの中で楽しい食事をするを基本とした配慮を行なう。 ・子どもの自立心が育まれるよう、意欲や主体性を尊重しながら食習慣の形成を図る。
保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な基本的な習慣や態度が身に付き、健康や生命を尊ぶ心が育ち、自主的に行動することができるよう配慮する。 ・老人福祉施設訪問など世代間交流等を通じ、いろいろな人と交流し、共感しあう経験を通じて人と関わることの楽しさや大切さを味わうことができるような機会を多く持つ。 ・集団生活におけるさまざまな経験や役割の体験を通じて、ある程度の数量や文字、時間の感覚が身につくよう、また、小学校への訪問や小学生との交流を通じて、就学への期待感が膨らむようにするとともに、就学を意識して、時には自分自身を律することの大切さや、場面や状況に応じて自己主張や自己表現できる力が身につくよう配慮する。 ・表現しようと思うもののイメージがわくような雰囲気を作り、さまざまな材料や用具を適切に使えるようにしながら、表現する喜びを知らせ、創造性が豊かになるよう配慮する。 ・本や身近なさまざまな文字を読んだり、簡単な文字を読み書きできる喜びを大切に、言葉の感覚が豊かになるよう配慮する。 ・表現しようと思うもののイメージがわくような雰囲気を作り、さまざまな材料や用具を適切に使えるようにしながら、表現する喜びを知らせ、創造性が豊かになるよう配慮する。 ・自分のしたいことがしっかりと相手に伝わる喜びを味わうため、人前で話す機会や場面を多くする。 ・奉仕活動や社会見学を行ない、社会や公共施設などと自分との関わりを気づき、社会や地域への関心の芽生えが深まるよう配慮する。 ・和太鼓やリズム楽器などの音楽表現活動を楽しんだり、柔道教室を通じて挨拶・礼儀作法を身に付けつつ全身で運動させる。 ・長時間保育の子どもには、特に日課の終盤、心身が安らいで過ごせるよう、家庭的で静的な保育環境を用意する。 		配慮事項	食と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活と関わり深い人々との触れ合う機会をつくる。 ・食を通じた地域ボランティア活動へ参加を促す。
				食と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関わる文化や世界、人とのつながりの理解が広がるような過程を大切にしつつ、構成する。 ・地産地消や学校給食への円滑な移行を図る。
				命の育ちと食	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や食材が持つ美しさや不思議さを直接体験できるよう、子どもとの関わりを大切にすること。 ・子どもができる部分に十分配慮しつつ、安全で楽しい栽培活動を進める。
				料理と食	<ul style="list-style-type: none"> ・食事が楽しい雰囲気の中で進むよう、室内の環境が快適で衛生的なものとなるよう配慮する。 ・子どもができる部分に十分配慮しつつ、安全・衛生的で楽しい調理体験を進める。 ・自分たちでメニューを考え、調理し、盛り付けて味わうという一連の食の取り組みが、衛生的で安全に進むことができるよう配慮する。 ・調理の仕事について理解できるよう工夫する。
				重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を子ども自らが気づき考え実践する態度を養うこと。 ・就学後を見通した(一貫性や連続性のある)生活をおくらせること。
				保健計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な基本的な習慣や態度が身に付き、健康や生命を尊ぶ心が育ち、自主的に行動することができるよう配慮する。